広島大学

環境報告書

2019

Environmental Report 2019

ダイジェスト版

環境報告書は，事業者が環境負荷及び配慮等の取組状況について公表するものです。本学では，環境配慮促進法等に基づき，2006年度から毎年作成しています。

詳しくは広島大学 HP「環境への取組」（https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/initiatives/kankyo）をご覧ください。

本誌「環境報告書ダイジェスト版」は，環境報告書の一部を紹介しつつ，大学としての環境配慮活動へのご理解とご協力を，構成員のみなさまにお願いするための広報誌です。

▶ 環境報告書2019版の内容

- 学長ステートメント
- 広島大学基本理念・環境基本理念・行動方針
- 大学概要
- 環境管理体制
- 2018年度の目標と実績
- 環境教育
  - ・教養教育における環境教育
  - ・教育学部・教育学研究科における環境教育
- 環境研究
  - ・災害に関する研究
- 社会貢献・国際貢献・学生活動
- 自然環境
  - ・キャンパスの自然環境の保全
  - ・東広島キャンパスのバッタ目
  - ・東広島キャンパスの魚類と国内外来魚
  - ・Web サイト「広島大学の自然」について
- 環境負荷削減
  - ・エネルギー消費状況と取組
  - ・水投入量と削減対策
  - ・コピー用紙購入量と削減対策
  - ・廃棄物発生量と削減対策
  - ・マテリアルバランス
- 環境リスク低減
  - ・安全衛生管理体制
  - ・化学物質等の管理
  - ・実験廃液処理・管理
- 環境に関する規制等の遵守状況
- 環境報告ガイドライン（2012）との対照表
- 第三者コメント・環境活動評価委員会コメント
- キャンパスマップ，編集後記

広島大学基本理念

「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し，理念５原則の下に，国立大学としての使命を果たします。

- 平和を希求する精神
- 新たなる知の創造
- 豊かな人間性を培う教育
- 地域社会・国際社会との共存
- 絶えざる自己変革

（1995年10月17日策定）

環境基本理念

地球環境を保全し，持続可能な社会を構築することは21世紀の人類最大の課題であるとの認識に立ち，単に環境負荷削減に取り組むだけでなく，教育・研究・社会貢献を中心とした大学の全ての活動・行動を通じて，地域社会・国際社会との連携の中で環境負荷削減に取り組み環境保全に貢献するよう努める。

（2006年5月23日策定）

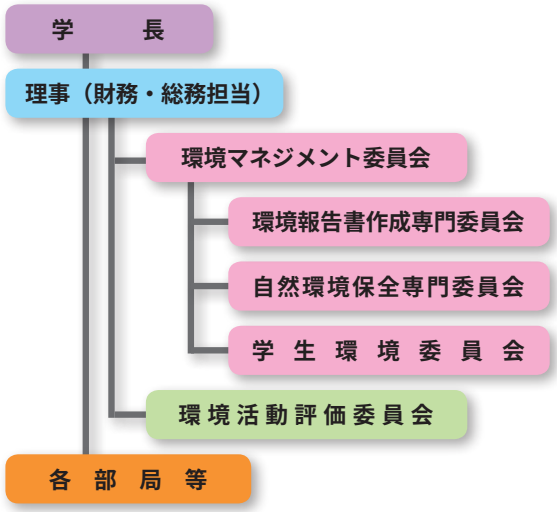
行動方針

- ●大学内外における環境教育を通じて，環境に対する高い問題意識と知識をもつ人材を育成する。
- ●地域・地球環境の保全，持続可能な社会の構築に向けた先進的・実践的な研究を推進する。
- ●大学が蓄積し，創造してきた知的財産を広く社会に還元し，地域社会・国際社会における環境保全活動に貢献する。
- ●全ての活動において，環境関連法令を遵守し，環境負荷の削減と自然環境の保全に努める。
- ●環境報告書を通じて，広島大学の環境に関する取組を積極的に公開し，社会との共生を図る。

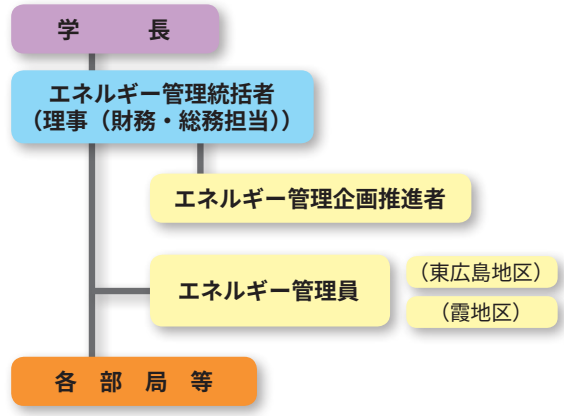
（2006年5月23日策定）

本学の環境管理体制

● 環境マネジメント体制



● エネルギー管理体制



2018年度の目標と実績

区分	環境目標	達成度	主な活動実績
環境教育・研究の推進	環境・安全教育の全学実施	○	・専任衛生管理者による安全衛生教育を実施（対象:新入生・新規採用職員ほか） ・産業医・専任衛生管理者による月1回の安全衛生重点巡視を実施 ・環境報告書ダイジェスト版を作成し，学内構成員及び学外に向けて周知を実施
	教養教育，専門教育等を通じた環境意識の醸成	○	・教養教育，専門教育等において環境問題の歴史，地球温暖化，水質汚濁，自然景観観察の野外教育等，多数の環境関連講義を実施
	環境研究の連携強化と促進	○	・複数研究科等の研究者から成るチームによる環境関連研究課題を推進 ・食料・環境問題に関する国際シンポジウムの開催 ・環境調査活動を継続
社会貢献の推進	地域社会・市民と連携した環境保全活動の推進	○	・一般市民を対象にした植物観察会を実施 ・練習船を利用して地域住民を対象にした野外観察会を実施 ・附属学校園周辺の清掃活動を実施
	地域・国際社会の環境問題解決に向けた取り組みの推進	○	・東広島市において光害実態調査を実施 ・東広島市内の河川に生息する天然記念物オオサンショウウオの分布調査を実施 ・学生環境委員会が「東広島市環境審議会」に委員とし参画
	学校教育から生涯学習までの地域環境教育への貢献	○	・公開講座における環境関連の講演会を開催 ・市民を対象とした体験学習，実習授業を実施
自然環境の保全	キャンパス内の生物相の把握	○	・東広島キャンパスの哺乳類相の調査を継続的に実施
	キャンパス内の生物多様性を守る生態系管理体制の構築	○	・自然環境保全専門委員会において，東広島キャンパス野外調査届出書の申請手続き方法を確立
	キャンパスの自然環境の管理・保全の実施	○	・植物管理室によるキャンパス内の植生管理を実施 ・樹木の水やり，剪定，害虫駆除を実施 ・学生教職員が一斉清掃活動を実施
資源の有効利用の推進	エネルギー使用原単位の削減 ・2015年度比2%削減 ・2021年度までに2015年度比6%削減	△	・エネルギー原単位：2015年度比1.6%減 ・電力消費量の掲示による周知や教授会等において使用量を報告 ・照明設備・空調機等の省エネ型へ順次更新
	水使用量の削減と資源化の促進 ・水使用量の削減（2012年度実績（過去7年間の最低使用量）より減） ・2017年度実績より減 ・水再利用の促進	×	・上水使用量：2012年度比1.4%増加：2017年度比13.2%増加* ・トイレの洗浄水の水量調節，節水型の導入 ・循環型冷却装置を利用 ・ポスター等の掲示や教授会等において周知徹底を行った *増加の要因：2018年7月豪雨災害の影響で環境安全センターの装置が故障し，中水制度が利用できなかったため。
	廃棄物の削減と資源化の推進 ・資源化促進による可燃ごみ排出量の削減 ・2015年度比2%削減 ・2021年度までに2008年度実績まで削減	△	・可燃ごみ廃棄量：2008年度比8.0%増加：2015年度比2.2%減 ・ごみステーション巡視による分別状態の把握と改善指導を実施 ・ポスター等の掲示により紙ごみの分別徹底と資源化を推進
	コピー用紙購入量の削減 ・2017年度実績より減 ・2014年度実績（過去7年間の最低購入量）より減	△	・コピー用紙購入量：2014年度比1.0%増加：2017年度比3.2%減 ・会議録の電子掲載，両面コピーによる紙使用量を削減 ・タブレット型情報端末等を利用したペーパーレス会議を推進

○：目標を達成　△：目標を一部達成　×：目標を未達成

環境教育

詳しくは，環境報告書の p.7～9参照

広島大学の環境に関する教養教育では，自然災害と防災に関する講義を紹介しました。専門教育では，今年度は教育学部・教育学研究科における環境教育を取り上げて紹介しています。

教養教育における環境教育

○世界各地で発生している自然災害を取り上げ，その原因を解説する。

「自然災害と防災」

総合科学研究科 准教授　長谷川　祐治

教育学部・教育学研究科における環境教育

○ユネスコスクール加盟申請の支援を行う。

教育学研究科ユネスコスクール委員会

教育学研究科 教授　由井　義通

○環境を題材とした授業の計画や改善への助言，出前授業を行う。

中学校での活動支援

教育学研究科 教授　竹下　俊治

○海洋環境を学習する体験実習を実施する。

高校生対象の体験学習

教育学研究科 准教授　富川　光

○自然に対する幼児の興味・関心，思考力や豊かな感性などの育成に関わることができる教師の養成。

「保育内容論（環境）」（教職専門科目）

教育学研究科 教授　山崎　敬人

○生物の分布と生育環境の関係について考察する。

「生物教材内容実験」（専門教育科目）

教育学研究科 教授　竹下　俊治

○自然環境・防災教育の基礎的要素の習得を目指す。

「自然環境・防災学習論」（専門教育科目）

教育学研究科 准教授　吉冨　健一

○地形・気候などの成り立ちを解説し，日本の地形の多様性やその原因を考える。

「地理学概説Ⅱ」「自然地理学研究」（専門教育科目）

教育学研究科 准教授　熊原　康博

○日本の食料事情について紹介し，食料と環境問題について考える機会を提供する。

「調理科学」「調理学実習」（専門教育科目）

教育学研究科 准教授　冨永　美穂子

○快適な住環境と，環境負荷の少ない住空間・設備機器について考える。

「住居環境学」（専門教育科目）

教育学研究科 准教授　高田　宏

自然環境

詳しくは，環境報告書の p.17～20参照

東広島キャンパスのバッタ目

数多く生息するバッタ目とは

総合科学部２年
南葉　錬志郎

東広島キャンパスの魚類と国内外来魚

国内外来魚がもたらす影響とは

総合科学部３年
鮫島　裕貴

詳しくは，環境報告書の p.10～12参照

特集：災害に関する研究

2018年７月の西日本豪雨災害に関する研究を特集しました。

河川災害，土砂災害，斜面崩壊の地理学研究などの直接的な研究，さらには災害後時の交通渋滞マネジメントの研究，大学病院の協力に関する研究を紹介しています。

○相乗型豪雨災害を引き起こした土砂・洪水氾濫のメカニズム解明とその対策に向けて。

「平成30年7月豪雨による河川災害と今後の川づくりに関する研究」

工学研究科 准教授　内田　龍彦

○より現実的で詳細な土石流の氾濫・堆積エリアの提示を目指す。

「土砂災害に関する研究について」

総合科学研究科 准教授　長谷川 祐治

○災害復旧・復興プロセス全体の流れの中で分野横断的な視点からの対策を！

「災害時の交通渋滞マネジメント：平成30年7月豪雨を例に」

国際協力研究科 准教授　力石　真

○地域の地形を観察し，低頻度でも急激な環境変化となる自然現象を読み解き，大きな災害になりにくい社会づくりや，人材の育成を！

「平成30年7月豪雨による斜面崩壊の分布調査と地理学研究」

文学研究科 准教授　後藤　秀昭

○被災地域に対する中長期的な精神的支援を継続する。

「平成30年7月豪雨に対する広島県災害派遣精神医療チームへの広島大学病院の協力について」

医系科学研究科 准教授　山下　英尚

Web サイト「広島大学の自然」について

東広島キャンパスの動植物を紹介

総合博物館 契約技術職員

池田　誠慈

社会貢献・国際貢献・学生活動

詳しくは，環境報告書の p.13～16参照

大学は，学生への教育・研究だけでなく，市民への知の提供・還元の場としてもその役割が期待されるようになってきています。本学においても，学生・教職員が，それぞれの知識・経験・能力を生かして，本学以外の組織・団体とも連携を図りながら地域・世界に貢献する活動を行っています。そして，それらの活動を通じて学生のみならず教職員も多くのことを学び，成長を続けています。また，本学の環境保全活動，普及啓発活動において，学生との協働は欠かせないものであり，学生の教育の側面からも重要なことだという認識が高まりつつあります。

社会貢献活動

日本エコミュージアム研究会全国大会 in 東広島

日本エコミュージアム研究会と広島大学総合博物館，総合科学研究科21世紀科学プロジェクトの共催で「エコミュージアムは地域の資源を守れるのか？」をテーマとする研究会を開催し，学内で講演や実践報告を，豊栄地区でワークショップを行いました。

総合科学研究科 教授　淺野　敏久

国際貢献活動

ボゴール農科大学 研究・コミュニティサービス研究所 環境研究センター（インドネシア共和国）との部局間交流協定締結について

部局間交流協定を締結し，お互いの強みを生かした環境浄化の共同研究を行うことにし，教員，学生の交流などを通じて，相互交流を展開していきます。

自然科学研究支援開発センター 教授　中島　覚

学生活動

島の魂・再考・研究者と地域アーティストとのコラボレーション：大崎下島御手洗町の写真と絵画特別展『自然　歴史　文化　芸術』

『大崎下島御手洗町－島の魂・再考』はアートと研究のコラボレーションであり，御手洗の美しさや深い歴史を紹介し，高齢化と過疎化の問題に向き合う集落を描きました。

総合科学研究科 博士課程後期２年　渠　蒙

西日本豪雨に関する OPERATION つながりの活動

昨年起きた西日本豪雨の際，東広島市ボランティアセンターの運営を行い,多くの広大生を被災地へ派遣しました。

工学部３年　竹谷　尚子

東広島市黒瀬町での
水路の土砂撤去作業の様子

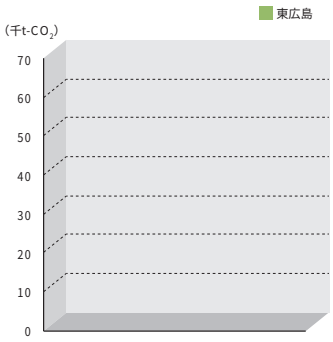
2018年度 学生環境委員会・サポーターの活動

広島大学学生環境委員会・サポーターが学内の緑化ボランティア参加等の活動をしています。

生物圏科学研究科 博士課程前期２年　宗野　有雅

東広島キャンパス内の
植物を観察中

東千田
霞



種類	種別	合計	再使用率